

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1270200668
法人名	社会福祉法人千葉勤労者福祉会
事業所名	グループホームひまわり
所在地	〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町5-225 (電話) 043-213-9500

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(20年10月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	24 人	常勤	13 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 4.7

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3 階建て(一部2階建て)の 1階 ~ 2 階部分
------	---

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	食費36,000円+水光熱費 15,000円+実費	
敷金	有(90,000円)	有りの場合償却の有無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無し			
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
または1日当たり 1,300円				

(4) 入居者の概要(11月 1日現在)

入居者人数	14 名	男性	名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉健生病院 中村歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人千葉勤労者福祉会が運営する複合施設で、まくはり生活福祉センター、デイサービスセンター、生活支援ハウス、訪問介護ステーション、地域交流センター、福祉相談室、介護ショップなどが併設されている。また、ひまわり医療・福祉の安心ネットワークでは、まくはり訪問看護ステーションとの24時間サポート契約、千葉健生病院などとの医療連携により、医療面での充実を図っている。複合施設のため、防災面での協力体制が構築されている。法人と連携しながら地域との交流を積極的に進めることで、グループホーム独自の近隣との交流や他事業(人材)交流が進むという相乗効果が生まれてきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営に関する家族等の意見の反映については、運営推進会議に家族が参加し、率直な意見交換をするなど、運営推進会議の機能充実を図っている。また、家族に介護相談員を紹介し、相談の窓口になっていることを伝えている。家族から出てきた意見や要望は直ぐに検討して、できる限りホームの運営に反映させるように努力している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員が1ヶ月間程度の期間を設けて行った。評価項目の意味の理解には、職員によっては差が見られるものの、分からない項目などは管理者の聞きながら取り組んだ。職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組もうと努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、第三土曜日の午後実施、会議では行事やホームの状況報告などに加えて、家族との情報交換や意見交換を取り入れている。ホームが目指している運営推進会議のあり方を職員と共に考え、運営推進会議の効果や参加意欲を高めるなどの工夫を検討し、実施したいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見や苦情については、家族の訪問時や定期受診時などに個別に対応している。また、運営推進会議で、家族から意見や要望などを出し合ってもらい、家族同士が相互に意見や助言を話し合えるようにし、その内容などを参考にしてホームの運営に活かし、介護相談員を紹介して相談の窓口になっていることを伝えている。家族から出た意見や要望は直ぐに検討し、できる限りホームの運営に反映させるように努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	社会福祉法人と連携しながら地域との交流を積極的に進めるように努力している。例えば「からたち夏祭り」や「ふれあい喫茶」を行う時はグループホームの入居者は積極的に参加し、地域の人にも参加してもらえるようにチラシを配布している。日々の挨拶は基より、近隣との交流を深めるために同法人が運営するデイサービスとの連携を深めながら進めている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームひまわりに住んでいる入居者の「その人らしさ」「生き方」「したいこと」を尊重し、地域に開かれたグループホームの運営に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいた支援を行っているかを職員会議やカンファレンスを通じて常に振り返っている。内部研修では理念に基づいた支援の質の向上を目指して、全職員が統一した自立支援が実施できるように努めている。また、日々の生活の中でも意識を高く維持できるようにケアノートを活用しながら職員間の連携を強めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人と連携しながら地域との交流を積極的に進めるように努力している。例えば「からたち夏祭り」や「ふれあい喫茶」を行う時はグループホームの入居者は積極的に参加し、地域の人に参加してもらえるようにチラシを配布している。日々の挨拶は基より、近隣との交流を深めるために同法人が運営するデイサービスとの連携を深めながら進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が1ヶ月間程度の期間を設けて行った。評価項目の意味の理解には、職員によっては差が見られるものの、分からない項目などは管理者に聞きながら行った。職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組もうと努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、第三土曜日の午後に実施、会議では行事やホームの状況報告などに加えて、家族との情報交換や意見交換を取り入れている。ホームが目指している運営推進会議のあり方を職員と共に考え、運営推進会議の効果や参加意欲を高めるなどの工夫を検討し、実施したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、千葉市グループホーム連絡会や中学生の職場体験の受け入れ、市主催の認知症研修や生活保護関連などの連絡も密に行っている。千葉市介護相談員を受け入れて、日常におけるケアの質の向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回定期的に「ひまわり便り」を発行し、ホームの暮らしぶりなどを報告している。家族との面会時や定期受診時、運営推進会議などで、近況報告、健康状態、金銭管理、職員の異動なども知らせている。また、家族が訪問時に気軽に話ができるような関係づくりを大切にしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの運営については、運営推進会議で家族から意見や要望などを出し合ってもらい、家族同士が相互に意見や助言を話し合えるようにし、その内容などを参考にしている。また、介護相談員を紹介し、相談の窓口になっていることを伝えている。家族から出てきた意見や要望は直ぐに検討し、できる限りホームの運営に反映させるように努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職が最小限に抑えられるように出産・育児休暇、千葉健生病院の保育所の利用など、職場復帰や働きながらの子育て支援を行っている。退職した職員が気軽に立ち寄れる雰囲気なども大切にしている。職員同士のコミュニケーションや入居者や家族との関係構築を積極的に行っていくことで、入居者へのダメージが少ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として行なわれている法人内外の研修には積極的に参加するようにしている。参加した職員が講師となり全職員に周知できる仕組みも構築している。常勤職員には「認知症の疑似体験」(入居体験)をすることで入居者の気持ちになる機会を設けている。職員教育計画を検討中であるが、個別の職員に合わせたものにはなっていない。		法人全体として行なわれる研修制度は優れている。しかし、グループホームの日々の生活の中で学べる仕組みなどが必要と思われる。その為には職員一人ひとりのスキル評価が求められる。適正な評価によって求められる知識やスキルを本人が自覚し、それを習得する為に協力する職員との関係の中で共に学ぶことも多いと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市高齢者認知症グループホーム連絡会に加入し、研修や交流会に参加している。千葉市介護相談員意見交換会や近隣のグループホームを訪問し、それぞれが抱えている問題や課題などを話しあっている。同業者との交流でホームの良いところ悪いところを再確認し、職員の長所を伸ばしていけると考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者本人が安心してサービスを開始できるように、本人に見学に来てもらい、家族の意見も聞き、自然に馴染めるように進めている。入居判定委員会には千葉市安心ケアセンターにも入ってもらい、必要度を検討して判定している。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の「その人らしさ」「生き方」「したいこと」を尊重しながら、昔話や苦労話を聞いたり、食事や家事を共に行ったりしている。裁縫、のれんづくり、料理などそれぞれの得意なこと、したいことを尊重して、教え教えられる関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の関わりの中から、本人の思いや希望に耳を傾ける時間をつくるようにしている。意思を表出できない入居者については、症状や行動パターンから読み取る努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる入居者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回カンファレンスを開催し、家族にも参加を呼び掛けている。家族、職員、看護師の意見などを反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は基本的に3ヶ月に1回開催しているカンファレンスで見直しを行っているが、状況変化が生じた場合、家族や医師に連絡をしたうえで計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じ、訪問薬剤師、通院ヘルパー、リハビリ等を利用し、生活相談員や訪問看護ステーションとも連携を取っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得て、かかりつけ医への受診を可能にしている。その他、ホームの主治医は月2回往診を行っている。入居者ごとに個別の連絡ノートがあり、受診時に持参し、医師が本人の状態を把握できるようになっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	可能な限り介護していく方針である。本人・家族の意思を日ごろからアンケートや話し合いによって意思確認を図っている。契約時に同意書を交わしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報事務所に保管している。取扱いは全職員に周知徹底している。言葉かけや対応については、入居者個々にあった対応を心掛けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの気分、体調に合わせた過ごし方を支援している。散歩や本人の日用品の買い物などの希望を可能な限り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。入居者の希望を聞いてメニューに取り入れ、好きな物を食べられるように工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を尊重し、入浴の曜日などを特に設定せず、入りたいときにはいつでも入浴できるようになっている。本人の希望があれば夜間入浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室掃除や洗濯物の干し・たたみ、調理、縫い物、簡単な手作業など入居者が各々得意なことを行っている。地域のふれあい喫茶を開き、地域の人との交流を図り、楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩など入居者が希望した時に、出来る範囲で支援している。		現状では職員人数の関係もあり、本人の希望通りに対応できる体制にまでは至っていないので、今後はボランティアの導入なども検討し、入居者本位の生活を実現することが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者個々の行動パターンの把握や職員の見守り、ドアベルにより、日中は鍵をかけていない。隣のデイサービスにも声をかけ見守りの連携をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で避難訓練を定期的に行っている。緊急時のマニュアルが整備され、消防署、地域との連携も図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えメニューを作成している。水分量はチェック表で管理している。一人ひとりの状態に合わせて、キザミ食にしたり食事量の調整をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に花を飾ったり、入居者とともに作った大きなカレンダーを壁に貼っている。訪問日はクリスマスが近かったので、クリスマスツリーが飾ってあり、季節が感じられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある家財を持ち込み、家族の写真や好きなぬいぐるみを飾り、安心して過ごせる居室空間になっている。		テレビを置いている入居者はいないが、持ち込みたいという希望があれば、居室でも見ることができるようになると、さらに良いと思われる。